



自民党・無所属 大阪府議団だより

三月十四日

よしむら

吉村よしむら

議員が健康福祉 常任委員会で質問



Profile プロフィール

1964年10月24日生まれ。富田林市立新堂小・第一中・府立金剛高校卒業（第一期生・初代生徒会長・ラグビー部）。近畿大学法学部経営法学科卒業。富田林市議会議員（3期）。大阪府議会議員（4期目）。大阪府議会万博誘致特別委員会副委員長。自民党・無所属大阪府議会議員団副政調会長。

**富田林市、大阪狭山市
及び南河内郡選出**

近畿大学医学部移転問題

吉村議員
要望

移転表明で南河内地域の医療機能は どうなるのか、住民から不安の声…

近畿大学医学部附属病院が堺市への移転の際には、大阪狭山市に病院や医療機能を残す前提で計画が進んできたが、人材確保が難しい等の理由で近畿大学は大阪狭山市に病院を残さないと表明した（昨年11月）。南河内圏域に医療機能が一つも残らず、三次救急や災害拠点病院がなくなるといふことで、地元・大阪狭山市などの住民から不安の声が上がり、移転反対の署名運動も起きている。

三次救急や災害医療、各病院との提携

南河内の医療機能 の維持について、 大阪府の責任をしっかりと果たすべき



近畿大学附属病院と南河内の各病院や診療所との現在の提携も堺市に移転することで低下するのではないかと私は危惧している。近畿大学が表明した計画について、大阪狭山市、近畿大学、大阪府の三者が協議する場を設けているとのことだが、南河内における三次救急や災害医療をはじめとする医療機能の維持についても、しっかりと協議することを要望する。

●介護人材の確保策について ●徘徊・見守りSOSネットワーク

深刻な人材確保を打開、若い世代へ 介護職のイメージアップが重要



Q. 吉村議員 府内の介護関連職種の有効求人倍率が5.41倍（今年1月）に達するなど、近年、介護の人材確保を取り巻く状況は厳しく、深刻だ。介護人材の確保に、幅広い層からの参入促進が必要だが、介護の仕事は「3K」などと呼ばれ敬遠されることが多いのが実情。現状を打開し、特に将来を担う若い世代に介護職のイメージアップを図ることが重要と考えるが、見解はどうか。

A. 地域福祉課長 介護人材の確保^(※)について、府は「大阪府介護・福祉人材確保戦略」を策定。平成30年度より新たに「『介護福祉士になろう!』推薦プロジェクト」を実施し、若い世代をターゲットに介護職のイメージを一新、介護が「選ばれる職業」となることを目指す。今年度より高校にも出向き、福祉・介護の基礎知識や介護技術体験などを行う「出前講座」を実施するなど魅力発信に努めてまいります。
(※2025年には府内で3万4千人が不足すると推測されている。)

増える認知症等による行方不明高齢者 「徘徊・見守りSOSネットワーク」 の24時間体制強化を!

早期発見・
保護へ

Q. 吉村議員 認知症の徘徊行動等による行方不明者は毎年増加傾向にある^(※)。府内の全市町村では行方不明高齢者を早期発見・保護するための「徘徊・見守りSOSネットワーク」が構築されているが、高齢者が行方不明になった場合に夜間を含む土日祝日24時間対応できる体制が望ましいと考える。SOSネットワークの24時間体制の強化に向けて、府としてどのように取り組むのか。

(※警視庁の平成29年6月発表によると平成25年から全国で1万人を越え、平成27年は約1万2千人、平成28年には1万5千人以上と増加。)

A. 介護支援課長 「徘徊・見守りSOSネットワーク」は府内全ての市町村において整備し（平成28年10月）、土日祝日も含めた24時間対応については府内25市町で実施されており、少しずつ拡大しています。夜間休日対応に未着手の市町村を中心に実態を把握し、24時間対応の情報共有化等を行い、SOSネットワークの実効性が高まるよう取り組んでいきます。

その他の質問

- 健康寿命延伸プロジェクト
- 中小企業における健康経営
- 死因調査体制
- 障害者差別解消法と事業者における合理的配慮の推進
- 駅ホームにおける安全性確保
- 障がい者スポーツの振興
- ユニバーサルデザイン行動計画などについて質問



理由を説明する 吉村善美議員

私立高校等 授業料無償化 条例の提案